

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上がっており、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後



も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長は「(要請内容を)関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をする」と答えました。

アスリート、観客の 安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

日本共産党

東京
民報

ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上がっており、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後



も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容を)関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

日本共産党

東京
民報

ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590

2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。

発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上がっており、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後



も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容を)関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員(新宿区選出)

おおやま・ともこ



大山とも子

日本共産党

東京民報
ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上がっており、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後



も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容) 関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (大田区選出)



藤田りょうこ

日本共産党

東京民報 ご注意・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上が



り、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容) 関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (品川区選出)



白石たみお

日本共産党

東京民報 ご注意・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上がっており、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後



も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容) 関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (目黒区選出)



星見てい子

ほしみ・いこ

日本共産党

東京民報 ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上がっており、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後



も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容) 関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (世田谷区選出)



里吉 ゆみ

さとよし・ゆみ

日本共産党

東京民報 ご注意・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年は熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上が



り、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容を)関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (杉並区選出)



原田あきら

日本共産党

東京民報
ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年は熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上が



り、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容を)関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員(豊島区選出)



米倉 春奈

よねぐち はるな

日本共産党

東京民報 ご注意・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上がっており、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後



も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容を)関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (練馬区選出)



とや英津子

日本共産党

東京民報
ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上がっており、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後



も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容) 関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。



都議会議員 (江東区選出)

あぜがみ・みわこ

あぜ上三和子

日本共産党

東京民報
ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年は熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上が



り、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容を)関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (板橋区選出)



とくとくとめ道信

日本共産党

東京民報
ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年は熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上がっており、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後



も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容) 関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (北区選出)



そね はじめ

日本共産党

東京民報
ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上がっており、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後



も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容) 関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (足立区選出)



青藤 まりこ

日本共産党

東京
民報

ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上がっており、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後



も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容) 関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (葛飾区選出)



和泉なおみ

いずみなおみ

日本共産党

東京民報
ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上が



り、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容) 関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (江戸川区選出)



河野 ゆりえ

こうの ゆりえ

日本共産党

東京民報
ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上がっており、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後



も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容) 関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (八王子市選出)



清水ひで子

日本共産党

東京民報
ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年は熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上が



り、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容を)関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (北多摩1区選出)



尾崎あや子

おひさまあやこ

日本共産党

東京民報
ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上が



り、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容) 関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (北多摩4区選出)



原のり子

日本共産党

東京民報 2018年8月号外 発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪

ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590

2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。

発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

時期再検討を

共産党都議団が 知事に申し入れ

日本共産党都議団は7月31日、酷暑が予想される2020年東京五輪・パラリンピックの開催日程を再検討するよう、小池百合子都知事と森喜朗大会組織委員会会長に申し入れました(上写真)。

9月、10月開催を

環境省によると今年には熱中症を予防する指標となる東京の「暑さ指数」が、7月13日以降、マラソンのスタート時の午前7時でも「厳重警戒」となる28度を超える日が続き、9時には「運動は原則禁止」の31度以上となる日が相次ぎました。

共産党都議団は、気象庁が「災害と認識」というほどの猛暑で熱中症の被害が広がっていることから、この時期の開催を多くの都民が心配するとともに、専門家から危惧する声が上がっており、海外メディアも警鐘を鳴らしていることを紹介。「2年後



も災害レベルの暑さとなる可能性は否定できず、アスリートや観客、ボランティア等を危険にさらしかねない」として、専門家や選手の意見も聞きながら、9月から10月に開催することも含めて改めて検討するよう強く求めました。

申し入れ書を受け取った東京都オリンピック・パラリンピック準備局長(要請内容を)関係部局に伝えるとともに、組織委員会にも話をすると答えました。

アスリート、観客の

安全第一の五輪成功へ

共産党都議団はこれまでも五輪開催時期の変更を提案してきました。当時、東京都は「問題ない」という立場でしたが、今日の状況を見れば、「災害」レベルの暑さの危険性は明らか。アスリートや観客、ボランティアを守る五輪になるよう全力をあげます。

都議会議員 (町田市選出)



池川 友一
いけがわ ゆういち

日本共産党

東京民報
ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2018年8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

このままいったら 猛暑の五輪